

イナーランナー



石垣市立 宮良小学校

〒907-0243

石垣市宇宮良331-1

TEL 0980-86-7016

FAX 0980-86-7392

miyara-s@city.ishigaki.okinawa.jp

「文武両道！宮小っ子」各分野で大活躍の秋

10月も後半に入り、ここ石垣でも涼しく過ごしやすい日が続いています。保護者の皆様、地域の皆様には益々ご健勝のこととご拝察いたします。学校便り14号で「いろいろな秋」についてお伝えしましたが、宮小っ子は各分野で大活躍でした。

特に、スポーツ面での活躍が目立っています。13日(土)に行われた小体連陸上競技大会では全30種目中半分の15種目で3位以内入賞(1位10種目、2位3種目、3位2種目)を果たす好成績でした。参加した児童の皆さんのが頑張りを讃えたいと思います。また、先日の市内の少年野球大会では、本校から3名の児童(6年、5年、4年男児各1名)が所属するチームが優勝を勝ち取り、女子サッカーでは、八重山選抜チームの一員(4年女子1名)として、県大会に出場し準優勝の栄冠(九州大会出場)を得ています。

文化面でも、下記に紹介の童話お話大会での堂々とした発表、1年生を中心に応募した書道コンクールでの多数入賞、読書感想文・画コンクールへのチャレンジ等、正に「文武両道」の活躍でした。子どもたちの頑張りを心から讃えたいと思います。



特設授業「e-ネットキャラバン」(10月23日5校時)

近年のスマホやアイホン、タブレットpcの普及により、日常生活が便利になってきた反面、インターネットを介した問題が急増しています。

その中で、本校の現状を見ていると、ほとんどの児童(家庭)がアイホンやスマホ、タブレットを持っており、インターネットを使ったゲームも日常的に行っている児童も多いようです。

今回の特設授業では、「メールやラインでのいじめ」「ゲームのアプリダウンロードによる多額請求」「ネットへの身勝手な画像アップによる問題」等について、NTT西日本から「嶺間さん」と「川満さん」にお越し頂いて、実際のケースの動画を通して考える事ができました。

次回は、保護者対象の学習会も開催できればと考えています。子どもを守るために心得について、ともに学んでいきましょう。



市P連主催「童話・お話大会」(10月21日)

去った日曜日に開催された市P連主催「童話・お話大会」に本校から「半嶺当真さん(2年)」「増子紗久さん(3年)」「増子雅久さん(6年)」「宮良綺心さん(5年)」の4名が学校代表として参加し、それぞれに練習の成果を十分発揮してくれました。

その結果、「半嶺当真さん」「宮良綺心さん」が優良賞、「増子雅久さん」が優秀賞、そして童話(低学年)女子の部に出場した3年の「増子紗久さん」が最優勝賞になりました。最優秀賞に選ばれた「増子紗久さん」は、来月11日に予定されている「八重山地区童話お話意見発表会」に出席することになりました。おめでとうございます。

どの部門も、大会に参加した各校の代表の発表のレベルが高く、感動の連続でした。その中で堂々と発表できた4名の宮小っ子に拍手を送りたいと思います。パチパチチ

又、見事代表に選ばれた「増子紗久さん」には、地区大会でも頑張ってほしいと思います。

←高学年男子の部の発表の様子



石垣市立教職員研修会「信泉プロジェクト」(10月10日)

今年度初めての取り組みとなります本研修には、市内の全小中学校の職員が参加しました。秋田県の鹿角市立八幡平中学校教頭の中村史子先生の社会科の模擬授業(写真)や北中城小学校校長の目取真康司先生の講話を通して、沖縄県の教育の現状について確認することができました。

その中で、特に印象的だったのは石垣の偉人「大濱信泉先生」を教材化した模擬授業でした。石垣二中の1年生を対象に沖縄の戦後の歴史を振り返りながら、その課題解決に取り組んだ信



泉先生の多くの功績に触れ、その偉大さを理解するというものでした。教材分析の深さ、授業の流れ方、生徒の発表の促し方等、学びの多い内容でした。

学力向上には、広い視野に立った多角的な取り組みが必要だということを改めて感じました。

「奥間杏菜先生」教育実習頑張っています

22日(月)～26日(金)

本校出身で福岡女子短期大学2年次に在学する「奥間杏菜先生(H23年3月卒業)」が、今週の月曜から1週間の予定で教育実習に臨んでいます。

月曜日の朝会で、全校児童を前に実習に臨む意気込みを語ってくれた杏菜先生。その日から、担当学年の児童への「手あらい指導」を行ってくれています。(右写真)

1週間という短い期間ですが、積極的且つ創造的に学びを深めてもらえればと願っています。

3年担任の「根路銘結奈先生」の指導の下で、栄養教諭を目指した学習を積んでいきます。本校出身の誇りを胸にさらに大きく成長し、近い将来、郷土を背負ってたつ人材となることを期待し応援していきたいと思います。



↑指導の様子